

1 趣旨説明

鈴木 敦命



本日は「顔の実験心理学
(2) 顔では決まらない顔
の印象」という題目でセミ
ナーを行います。最初に
私から全体的な趣旨説明
をさせていただきます。

このセミナーでは顔の印象について取り上げます。私たちは人の顔をぱっと見ただけで、「美しい」、「イライラしている」、「偉そう」など、その人について実に様々な印象を抱きます。例えば、図のAの3つの顔を見てください。どの顔が最も魅力的に見えるでしょうか。次に、図のBの2つの顔を見てください。どちらの方が怒っているように見えるでしょうか。最後に、図のCの2つの顔を見てください。どちらの方が強そうに見えるでしょうか。

みなさんの印象はどうだったでしょうか。もちろん回答は人によって異なりますが、最初の魅力については中央の顔が最も魅力的という回答が多いと予想されます。次の質問については左の顔の方が怒っているという回答が、最後の質問については右の顔の方が強そうという回答がそれぞれ多いはず
です。

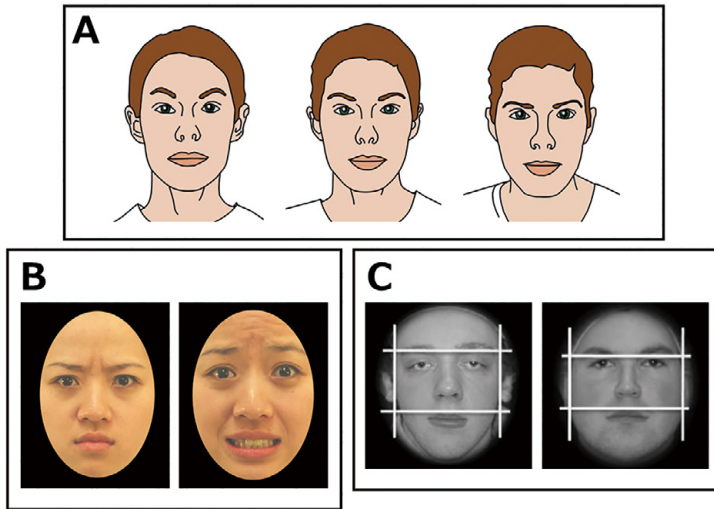


図 顔のイメージ

心理学や関連する学問領域では、こうした「典型的な回答」が生じる原因、つまり、どのような特徴をもった顔が多くの人にとって共通に魅力的だと感じられたり、怒っていると感じられたり、強そうだと感じられたりするのかな、といったことが調べられてきました。

例えば、先ほどの図のAの中央の顔は、左右の顔の対応する部分を平均化することで作成されたものです¹。これを平均顔と呼ぶことにしましょう。そして、平均顔は元の顔よりも魅力的だと感じられやすい傾向があります²。

1 図の出典：https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Average_of_two_faces_2.jpg

2 この傾向は多くの顔をもとに平均顔を作成した場合に強く現れます (Langlois, J. H., & Roggman, L. A. (1990). Attractive faces are only average. *Psychological Science*, 1, 115-121.)。

次に、先ほどの図のBの顔は、Facial Action Coding System³に準拠して表出された顔表情を示しています⁴。Facial Action Coding Systemでは、顔の要素的な動きの組み合わせによって種々の感情の顔表情が定義されます。例えば、左の顔のように、眉根が寄せられていることや固く結ばれた唇などは、怒りの顔表情の特徴とされます。一方、右の顔のように眉が上がって引き寄せられている状態や上まぶたの持ち上がりと下まぶたの緊張などは、恐怖の顔表情の特徴とされます。

最後に、先ほどの図のCの顔は、顔の縦幅に対する横幅の比が異なるように作られたものです⁵。右の顔の方が強そうと評価されやすいということは、顔の縦幅に対する横幅の比が大きい顔の方が強そうと評価されやすいことを意味しています⁶。

以上のように、心理学の研究では、顔の典型的な印象を左右する顔の特徴について様々な提案がなされてきました。

ですが、顔の印象は顔だけで決まるのかというと、そうではありません。

3 Ekman, P., Friesen, W. V., & Hager, J. C. (2002) . *Facial Action Coding System*. Salt Lake City: A Human Face.

4 図の出典：Chen, L-F. & Yen, Y.-S. (2007) . *Taiwanese Facial Expression Image Database*. Brain Mapping Laboratory, Institute of Brain Science, National Yang-Ming University, Taipei, Taiwan.

5 図の出典：Geniole, S. N., Denson, T. F., Dixson, B. J., Carré, J. M., & McCormick, C. M. (2015) . Evidence from meta-analyses of the facial width-to-height ratio as an evolved cue of threat. *PLOS ONE*, 10, e0132726.

6 Hehman, E., Flake, J. K., & Freeman, J. B. (2015) . Static and dynamic facial cues differentially affect the consistency of social evaluations. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 41, 1123-1134.

ここまでで、「こちらの顔の方が魅力的と評価されやすい。」「こちらの顔の方が強いと評価されやすい。」といったことを話しましたが、「自分の評価とは違う。」と納得できなかった人も少なくなかったでしょう。つまり、顔の印象は、顔の影響を受けるだけでなく、見る人の影響も受けます。言い換えると、同じ顔を見てもどのような印象を抱くかについては個人差があります。さらに、顔の印象は顔そのものや見る人以外の影響も受けます。例えば、その時の状況によって同じ顔の印象が変わるということもあるでしょう。

実到大雑把な分け方ではありますが、顔、顔を見る人、状況その他という3つの原因のそれぞれが顔の印象に与える影響の強さを推定した研究があります⁷。この研究では、人種や性別の印象は顔の影響によって70%程度説明できると推定されています。つまり、簡単に言えば、男性の顔か女性の顔かという判断やアジア人の顔か西洋人の顔かという判断には、顔を見る人ごとの個人差は少なく、状況などによる変動も少ないということです。ただし、それでも顔の影響が100%ではないことに注意が必要です。

それに比べると、魅力、怒り、強さの判断に対する顔の影響は10～25%程度と推定されていて、かなり小さいです。言い換えると、これらの判断については見る人による個人差やその他の影響が相対的に大きい傾向にあります。

7 Hehman, E., Sutherland, C. A. M., Flake, J. K., & Slepian, M. L. (2017) . The unique contributions of perceiver and target characteristics in person perception. *Journal of Personality and Social Psychology*, 113, 513-529.

す。このように、顔の印象は顔だけでは決まりません。

前回、私が企画したオープンセミナー⁸では顔を見る人の個人差の影響を取り上げたので、今回のセミナーではその他の影響をクローズアップすることにしました。「その他の影響」というと、何とも漠然としていて、体系的な説明を放棄している感じがあります。実際、今回のセミナーは、その他の影響を体系化することを試みたものではありません。もしその点に不満を感じられましたら、それは講演者の先生方の責任ではなく、企画者の私の責任です。むしろ、3名の先生方にはそれぞれまったく異なる視点に立った研究を紹介していただきたいと依頼をしました。このセミナーを通じて、顔の印象を左右する要因の多様さを味わってもらえればと思っています。

では、私からの前説は以上とさせていただいて、これから三名の先生方にご講演いただきます。宮崎先生、大江先生、上田先生、どうぞよろしく願いします。

8 東京大学ヒューマニティーズセンター第22回オープンセミナー「顔の実験心理学(1) 心の中の顔イメージを可視化する」(<https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/open-seminar/2020/face-experimental-psychology/>)